

『羅葡日対訳辞書』における「こんせつ（懇切）」の現れ方をめぐって

漆 崎 正 人

一 はじめに

『羅葡日対訳辞書』（1995年刊）の *Caritas* の項目において、ポルトガル語の *charidade* ‘Amor’ 及び日本語の「たいせつ（大切）」、「こんせつ（懇切）」が引き当てられていることについて、以前に^{注1}取り上げたが、ここでは、キリスト教的愛の日本語訳語としては、従来ほぼ「たいせつ」専用と見做されているけれども、『羅葡日対訳辞書』における、*Caritas* の項目での「こんせつ」のありようは、これまで関心が殆ど持たれていなかったこの語の、キリスト教的愛との関わりを検討する必要性があることを示している^{と述べた}。

そこで、本稿では、「こんせつ」が、『羅葡日対訳辞書』においては、いったいどのような現れ方をしているのか、という問題について検討しようと思う。

二 『日葡辞書』における「こんせつ」の項目の記載内容

『羅葡日対訳辞書』における「こんせつ（懇切）」のありようを吟味する前に、当日来日した宣教師たちが、「こんせつ」をどのような語と捉えていたかを、『日葡辞書』（1603～04年刊）の「こんせつ」の項目の記載内容から、確認しておくことにする。

『日葡辞書』の「こんせつ」の項目は、次のように記載されている。

Conxet Nengoroni xet nari. Amor. *gasalhado*. 『Conxetuo

*tuusu. Mostrar grande amor, *gasalhado*. (訳…懇切。^{コソセツ}懇ニ切ナリ。愛と厚遇と。『懇切ヲ尽ス。大きな愛と厚遇とを示す。)*

この項目では、まず見出しの熟字構成に関する訓読的な説明があり、続いて、ポルトガル語による語釈が、*amor* ‘愛’ と *gasalhado* ‘厚遇’ との併記という方法で示され、また、添えられた例文「懇切ヲ尽ス」の「こんせつ」に対応するポルトガル語訳には、やはり *amor* と *gasalhado* が用いられている。したがって、この項目の記載内容から言えば、「こんせつ」は、‘愛’ と

へ厚遇こうぶくという意を有する語と宣教師たちは理解していたと見做される。

三 『羅葡日対訳辞書』における「こんせつ」の全用例

『羅葡日対訳辞書』における「こんせつ（懇切）」の全用例は、次の十四例である。

- ① *Charitas, I. Caritas, atis. Lus. Charidade, amor, lap. Taixet, conxet.* (訳: *Charitas*, または *Caritas, atis*へ 1 高値、高価。2 尊敬、好意、愛情。3 『キリスト教』人間愛、隣人愛。注2ポルトガル語。へ愛徳く、へ愛く。日本語。大切、懇切。)
- ② *Eulogia, ae. Lus. O bem dizer, ou be fazer, lap. Conxemo cotobauo caquru, I. nengoroni atqucó cotouo yú.* (訳: *Eulogia, ae*く祝注3福く。ポルトガル語。善き事を言うこと、あるいは、善き事を行うこと。日本語。懇切ノ言葉ヲ掛クル、あるいは、懇ニ扱フ事ヲ言フ。)
- ③ *Gratia, ae. Lus. ¶ Itē, Beneuolencia, e fauor, lap. Conxet, teinei, chisó,* (訳: *Gratia, ae*へ 1 美しき、愛のしき、魅力。2 好意、尊敬、愛情。3 親切、尽力、世話。4 人気、信望。5 偏愛、えこひいき。6 感謝。7 『ギリシア・ローマ神話等』グラデーティアエ(美と優雅の三女神、ギリシア神話の *Charles* に当たる、*Aglia* 「輝き」
- ④ *Euphrosyne* 「喜び」(*Thalia* 「開花」の三姉妹)。8 『神学』(神の)恵み、恩寵。く。ポルトガル語。(中略) 同様に、厚意、および、親切。日本語。懇切、丁寧、馳走。(以下略)
- ⑤ *Honesto, as. Lus. Honrar, lap. Sôgió suru, conxetni suru, curaini aguru.* (訳: *Honesto, as*へ 1 荣誉を与える。2 美しくする、飾るく。ポルトガル語。へ名誉を与える、尊敬する、大切にする、等く。日本語。崇敬スル、懇切ニスル、位ニスル。)
- ⑥ *Hospitalis, e. Lus. ¶ Itē, Liberal, agasalhador de hospedes, lap. Tabitô, qiacujinno vaga iyeni xôji, conxetni suru cotouo sugu fito.* (訳: *Hospitalis, e*へ 1 客の、主人の。2 もてなしのよいく。ポルトガル語。(中略) 同様に、泊まり客を気前よく、もてなす人。日本語。旅人 客人ヲ我が家ニ請ジ、懇切ニスル事ヲ好ク人。)
- ⑦ *Hospitalitas, atis. Lus. Benignidade, facilidade e agasalhar hospedes, ou estrangeiros, lap. Qiacujin, I. anguitani conxet aru cotouo yú.* (訳: *Hospitalitas, atis*へ 親切にもてなすこと、厚遇。く。ポルトガル語。泊まり客、あるいは、外国人をもてなす際の、親切さ、寛大さ。日本語。客人、あるいは、行脚ニ懇切アル事ヲ言フ。)
- ⑧ *Hospitaliter, adu. Lus. Benigno, e liberalmete, lap. Conxetni, cocoro yocu, nengoroni.* (訳: *Hospitaliter, adu*く手厚く、親切に。くポルトガル語。親切に、気前よく。日本

語。懇切ニ、快ク、懇ニ。）

- ⑧ Humane, adu. Lus. Humana, benignam'ete. Jap. Nihani, cocoroyogu, conxeni. (訳： Humane, adu< 1 人間らしく、分別「慎しみ」をもつて。2 親切に、やさしく。ポルトガル語。思いやりをもつて、親切に、温和に。日本語。柔和ニ、快ク、懇切ニ。)

- ⑨ Officiosus, a, um. Lus. O que faz bem a outros; ou o q' cõ diligencia, e promptidão serve, e faz à vôtade a aquella, a que esta obrigado. Jap. Vonno vqetaru fioni conxet, l, teinciuo tçucusu mono, l, cocoro yoqu miazzucõ mono, l, tanimi vonno qisuru mono.…… (訳： Officiosus, a, um< 1 義務に忠実な、律儀な。2 礼儀正しい、親切な。3 さしでがましい、おせっかいな。ポルトガル語。他人に善くする者、あるいは、恩を受けている人に対して熱意や用意周到さでもつて仕え、そして十分に尽す者。日本語。恩ヲ受ケタル人ニ懇切、あるいは、丁寧ヲ尽ス者、あるいは、快ク官仕フ者、あるいは、他人ニ恩ヲ着スル者。(以下略))

- ⑩ Propitiorum, ij. Lus. Causa que nos faz a alguem propicio, ou beneuolo. Jap. Airenuo taresasuru mono, l, conxet chisõu sasuru mono.…… (訳： Propitiorum, ij. 1 神をなだめる「贖罪の」手段。2 贖罪所。ポルトガル語。ある人に、我々への慈悲や親切をさせるもの。日本語。哀隣ヲ垂レサスル

モノ、あるいは、懇切馳走ヲサスルモノ。(以下略))

- ⑪ Propitio, as, siue. Propitior, aris. Lus. Aplacar, fazer propicio a alguem Jap. Remnin, airenuo taresasuru, conxet, l, chisõ sasuru, fiono qiguenno toru.…… (訳： Propitio, as, siue, Propitior, aris< 1 好意を得る、なだめる。2 (感情を) 静める。ポルトガル語。ある人を落ち着かせる、慰める、ある人を慈悲的や好意的にさせる。日本語。憐愍、哀隣ヲ垂レサスル、懇切、あるいは、馳走サスル、人ノ機嫌ヲ取ル。(以下略))

- ⑫ Propitius, a, um. Lus. Favorael, propicio. Jap. Remnin, l, airenuo taruru mono, cõxeni chisõ suru mono, meuo caquru fito, nasageuo caquru mono. (訳： Propitius, a, um< 慈悲深い、親切な、好意的な。ポルトガル語。親切な、好意的な、慈悲的な。日本語。憐愍、あるいは、哀隣ヲ垂ル者、懇切ニ馳走スル者、目ヲ掛クル人、情ヲ掛クル者。)
- ⑬ Proximus, a, um. Lus.……『Aliqn. Mutio Propicio, ou fauoreael. Jap. Ichidan chisõ, l, conxeni suru mono.…… (訳： Proximus, a, um< 1 最も近い。2 次の、すぐ後の、最近の、すぐ前の。3 最もよく似た。ポロックス。i. 1 近親者。2 親友。3 隣人。4 (帝政期の) 文庫管理官補佐。ポルトガル語。(中略) 『時には。大変好意的な、あるいは、親切な。日本語。一段馳走、あるいは、懇切ニスル者。(以下略))』

- ⑭ Studeo, es, dui, itū. Lus.……『Aliqn. Amar, ou fauore-

cer, Tap. Taixetni vomô, chisô suru, conxetni suru, …… (訳: Studeo, es, dui, ita, < 1 (…に) 専念(熱中)する、得ようと努める、熱心に求める。2 (…に) 味方する、支持する、好意をもつ。3 学問する、研究する。)。ポルトガル語。(中略) 時には。愛する、あるいは、好意を示す。日本語。大切タイセツニ思オモフ、馳走チソウスル、懇切コンセツニスル。(以下略)

四 日本語訳語として「こんせつ」が同格的な表現と併記されていない場合

『羅葡日対訳辞書』における「こんせつ(懇切)」の全用例十四例のうち、日本語訳文中で、「こんせつ」が、それと同格的な表現と併記されずに用いられているのは、⑤、⑥の二例のみである。いずれも、「こんせつ」は、ラテン語見出しの直接的な対訳日本語としてではなく、Hospitalis, e' Hospitalitas, atis' それぞれの語義を説明する文中における一語として用いられている。

⑤、⑥の「こんせつ」は、見出しのラテン語自体に指定されている語義や、対訳のポルトガル語文中での、「こんせつ」に関わる部分に対応する表現に、それぞれ、*agasalhador*もてなす人、*agasalhar*もてなすことが好意的なこととして使用されていることからしても、「こんせつ」が、へ厚遇の意で使われていることは疑いない。⑤、⑥の日本語訳文中では、「こんせつ」が類義的

な表現とは併記されずに、へ厚遇の意の語としては言わば単独で用いられていることは、少なくとも、「こんせつ」がへ厚遇の意の代表的な語の一つと捉えられていたと解することができる。

五 日本語訳語として「こんせつ」が同格的な表現と併記されている場合

『羅葡日対訳辞書』における、「こんせつ(懇切)」の現れ方としては、むしろ、同格的な表現と併記されている場合の方がかなり多い。全十四例のうち、実に、十二例までが、同格的な表現と併置されている。

最も多いのが、「ちそう(馳走)」の六例である。日本語訳語として「こんせつ」と「ちそう」とが同格的に併記されているのは、③の *Conxet, ……; chisô*、⑩の …… *conxet chisôno sasuru mono*、⑪の …… *conxet, i, chisô sasuru, ……*、⑫の ……、*côxeni chisô suru mono, ……*、⑬の *Ichidan chisô, i, conxeni suru mono*、⑭の ……、*chisô suru, conxeni suru* の六例である。「ちそう」は、『日葡辞書』には、

Chisô, Vaxiru, Favor, & Agazalhado. (訳: 馳走チソウ。走ルワル。親切、および厚遇。)

とあるので、「こんせつ」との間に、へ厚遇という意において、類義関係が存するのは疑いないが、へ親切という意もへ厚遇

の類義と認められる。これら六例において、同格的なあり方自体は、様々であるけれども、いずれも、「こんせつ(に)」「ちそう」との類義性に基づく同格的な併記としては自然である。当該項目の対訳ポルトガル語文と対照すると、③が「厚意」と「親切」切、⑩が「親切」、⑪が「好意」、⑫が「親切」と「好意」、⑬が「好意」と「親切」、⑭が「好意(を示す)」と「意」で、それぞれ共通する関係にあるということになるが、これらは、強弱はあるにしても「厚意」の意とは近接しているものである。ラテン語見出しとの関係から見れば、まず直接的な対訳日本語として採用されている③の場合、見出しの *Gratia, ae.* の指定された語義の中に「親切」の意義がある。⑩の見出しの *Propitiatorum, ji.* の指定された語義の中には、「厚意」と密接に関わるような意義は見出しにくいが、*Proflatorum, ji.* の関連語でもある、⑫の見出しの *Propitius, a, um.* の指定された語義の中には、「親切」の意義があるので、⑩の *Propitiatorum, ji.* にも、「親切」に関わる意義があることを想定することはできよう。⑪の見出しの *Propitios, as, sine, Propitior, aris.* の指定された語義の中には、「好意をもつ」という意義が存する。⑬の見出しの *Proximus, a, um.* の指定された語義の中には、「厚意」と深く関わるような意義は取り出しにくい、*Proximus, a, um.* とは別語とされているものの、意味的な繋がりが窺われる *Proximus, i.* の指定された語義の中には、「親友」の意義がある。⑭の見出しのラテン語 *Studeo, es, diu, ita.* の

指定された語義の中には、「好意をもつ」という意義があると思われる。したがって、ラテン語見出しとの関係の検討からも、「こんせつ」と「ちそう」との同格的な併記が、「厚意」と「意」の類義関係に二語があることを示していると解することに問題はな

い。
次いで多いのが、「あいれん(哀憐)」「にころよく(快)」の、各三例である。

「こんせつ」と「にころよく」とが、日本語訳文中で、同格的に併記されているのは、⑦の *Conxeni, cocoroyogu, ……*、⑧の *……, cocoroyogu, conxeni, ……*、⑨の *Vonno vgetaru floni conxel, ……uo tucusu, l, cocoro yogu niazzucó mono, ……* の三例であるが、より厳密には、⑦と⑧においては「conxeni と cocoroyogu とが同格的であり、⑨では「conxel……uo tucusu と cocoro yogu niazzucó とが同格的である。」「にころよく」は『日葡辞書』には、

Cocoroyogu. De bon animo, ou boa vidade. (訳: 快ニハク。善き

魂において、あるいは、善き意志において。)

とある。「善き魂においてや」善き意志において」という訳義は、「誠意をもって」という意として捉えられようから、「こんせつ」が形容動詞の連用形「こんせつに」として機能するへ(もてなす際に)心を込めて」と「にころよく」の語義とは類義関係にあると見做すことができる。したがって、「こんせつ(に)」と「にころよく」

との同格的な併記は、類義関係に基づくものとして特に問題はない。⑨では、「こんせつに」と「つろよく」という語形での同格的な併記にはなっていないが、両者の類義性を前提として、それぞれが結び付く動詞との関係で、「つろよく」、「こんせつ(を)」の形式での対応となっていると解される。当該項目の対訳ポルトガル語文と対照すると、⑦が「親切に」と「気前よく」、⑧が「思いやりをもつ」と「親切に」、⑨が「熱意で」と「用意周到さで」の意の表現が、それぞれ対応しており、いずれの場合にも、「こんせつに」の「(もてなす際に)心を込めて」の意との間に類義性が認められると言うことができる。ラテン語見出しとの関係では、「こんせつに」、「つろよく」が直接的な対訳日本語として採用されている⑦の *Hospitaliter.adu.*、⑧の *Humane.adu.* の場合は、いずれも措定された語義の中に「親切に」が存する。また、⑨の *Officiosus.aum.* の場合にも、措定された語義の中に、「親切な」がある。ゆえに、ラテン語見出しとの関係からも、「こんせつに」(「こんせつに」)、「つろよく」が、見出し語の意義を理解するために極めて重要な語として、対訳日本語文中に用いられていることは疑いない。

次に、「こんせつ」と「あいれん」とが、日本語訳文中で、同格的に併記されているのは、⑩の *Aireno taresasuru mono,1,conxet……sasuru mono.*、⑪の *……,airenuo taresasuru,conxet,……sasuru,……*、⑫の *……,airenuo taruru mono,conxet,……suru*

mono,…… の三例であるが、より正確には、⑩と⑪では *airenuo taresasuru* と *conxet,……sasuru*、⑫では *airenuo taruru* と *conxet,……suru* とが同格的である。「あいれん」は、『日葡辞書』には、「補遺篇」に、

Airen,Compaxido,misericordia、『*Airenuo taruru,Apidar,se,ou*

condecer se de alguem. (訳・哀憐。憐み、憐愍。『*哀憐ヲ垂ルル*。ある人を不憫に思う、あるいは、同情する。)

とあり、また、「本篇」には、「*Airen*」の誤と思しい「*Airon*」の形で、

Airon,Auremi,Piedade,clemencia、『*Airenuo taruru,1,euay,uru,*

Ter piedade,ou compadecerse. (訳・アイロン「哀憐」か)。

憐み。同情、情け。『*哀憐ヲ垂ルル*、あるいは、加ユル。

憐む、あるいは、同情する。)

とあるので、「憐み」や「同情」という意として捉えられていたと考えられる。とすれば、「こんせつ」との類義性は希薄であるし、また、同格的な表現同士においても、『日葡辞書』の、それぞれの項目に掲げられた例文、「懇切ラッス」。「哀憐ヲ垂ルル」。という意と、「ある人を不憫に思う(同情する、憐む)。」という意である以上、両者は異義であると判断される。つまり、日本語訳語としての「こんせつ」と「あいれん」との同格的な併記は、類義性に基づくものではなく、意義上対等の資格に立つ他

の意義の表現ということとなされていると見做される。当該項目の対訳ポルトガル語文と対照すると、「こんせつ」と「あいれん」が、それぞれ、⑩においては、へ親切くへ慈悲く、⑪においては、へ好意的くへ慈悲的く、⑫においては、へ親切なくへ慈悲的なくというような、同様の異義関係にある対立の組み合わせとして捉えることができる。ラテン語見出しとの関係から見れば、「こんせつ」については、前述したように、これらの項目の語義には、へ厚遇くの意との関わりが認められるわけであるが、「あいれん」に関しては、⑩の見出しの *Propitiatorum*.j. の指定された語義の中には、「こんせつ」の場合と同様、へ憐みくやへ同情くの意と密接に関わるような意義は見出しがたいけれども、*Propitiatorum*.j. の関連語でもある、⑫の見出しの *Propitius*.a.um. の指定された語義の中には、へ慈悲深いくの意義があることからして、⑩の *Propitiatorum*.j. にも、へ憐みくやへ同情くに関わる意義の存在を想定できよう。⑪の見出しの *Propitiosus*.sive,*Propitioris*. の指定された語義の中においても、へ憐みくやへ同情くの意との関わりが明らかな意義は指定できないが、そもそも *Propitiosus*.sive は、⑫の *Propitius*.a.um. を語源としていることからすれば、⑪の *Propitiosus*.sive, *Propitioris*. の語義にも、へ憐みくやへ同情くに関わる意義の存在を想定することができよう。すなわち、⑩、⑪、⑫の項目における、日本語訳文中の、「こんせつ」と「あいれん」との、異義関係にある同格的な併記は、

ラテン語見出し自体の多義性に由来していると考えられるわけである。

「あいれん」、「ころよく」に次いで多いのが、「たいせつ（大切）」、「ていねい（丁寧）」、「ねんごろ（懇）」、「れんみん（憐愍）」の、各二例である。

「こんせつ」と「ていねい」とが、日本語訳文中で、同格的に併記されているのは、③の *Conxet*.teinei,……、⑨の *Vonno* vqetaru *fioni* conxet,teineiu *iqucusu* mono,……の二例である。「こんせつ」と「ていねい」の場合は、まさしく語の次元で同格的なのである。「ていねい」は、『日葡辞書』には、

Teinei Grande *agasalhado* ⑤ amor; Teineiu *iqucusu* / *Fazer* grande *agasalhado*. (訳・丁寧。非常な厚遇と愛と。『丁寧ヲ尽ス。

非常な厚遇をする。)

とあるから、「こんせつ」との間には、へ厚遇くへ愛くとの両義において類義関係が存することになり、両者の類義性はかなり強いと言える。なお、『日葡辞書』の、それぞれの項目に掲載された例文、「懇切ヲ尽ス。」「丁寧ヲ尽ス。」「添えられたポルトガル語訳文は、それぞれ、大きな愛と厚遇とを示す。」という意と、「非常な厚遇をする。」という意であることからすれば、「ていねい」の方は、へ愛くよりもへ厚遇くの方に意義の重点があると思はずべきであろう。そういう視点に立てば、⑨については、へ厚遇くの意義における類義性と捉えられるし、③に関しては、実

は、*Coxeteinei, chisô* と併記されており、「こんせつ」と「ちせつ」との類義性が、*へ厚遇* の意義においてであることを踏まえれば、この場合の「こんせつ」と「ていねい」の類義性も、*へ厚遇* の意義において取り立てられていると解すのが、むしろ自然であろう。当該項目のポルトガル語訳文と対照すると、③が*へ厚意* と*へ親切*、⑨が*へ熱意*で、*へ用意周到* の意の表現と対応しており、ともに、両語の類義性が*へ厚遇* の意に基づいていることによる対応と捉えることに支障がない。ラテン語見出しとの関係では、「こんせつ」と「ていねい」が直接的な対訳日本語として採られている③の見出しの *Gratia, ae* の措定された語義の中には、前述したように、*へ親切* の意義がある。また、⑨の見出しの *Officiosus, a, un* の措定された語義の中には*へ親切* な*へ好意的* なくがある。よって、ラテン語見出しとの関係からも、「こんせつ」と「ていねい」は、*へ厚遇* の意の類義性によって、日本語訳文中で、同格的に併記されていると解すことができる。

次に、「こんせつ」と「れんみん」とが、日本語訳文中で、同格的に併記されているのは、⑩の *Remini, ……no taresasuru, conxet, ……sasuru, ……* ⑫の *Remini, ……taruru mono, conxetini, ……surumono* の二例であるが、より正しくは、⑩では、*Remini, ……no taresasuru y conxet, ……sasuru* ⑫では、*Remini, ……taruru y conxetini, ……suru* とが同格的である。「れんみん」は、『日葡辞書』には、

*Remini, Auaremi, Misericordia, & piedade, ¶Remini su-
ru, launayuru, Isar de piedade & misericordia.* (訳：憐愍^{レミヤン}
憐愍^{レミヤン}、および、同情。『憐愍スル』あるいは、加ユル。
憐愍や同情のふるまいをする。)

とあるから、*へ憐み* や *へ同情* の意の語と捉えられていたと思われる。「れんみん」は、「あいれん」と極めて類義性が強いということになるから、「こんせつ」と「れんみん」との関係も異義関係であり、日本語訳語としての、「こんせつ」と「れんみん」との同格的な併記も、意義上対等の資格に立つ他の意義の表現ということになされたものと判断される。実は、「れんみん」の存する二例は、⑩では、*Remini, airenno taresasuru, conxet, ……sasuru, ……* ⑫では、*Remini, lairenuo taruru mono, cõxetini, ……suru mono, ……* とあって、「あいれん」も併記されているのである。しかも、同格的なあり方は、「れんみん」と「あいれん」との方が直接的である。つまり、「れんみん」は、「あいれん」とまづ類義性に基づく同格的な関係があり、さらに、両語は、「こんせつ」と対等な異義関係により同格的に併記されていると考えられる。当該項目の対訳ポルトガル語文との対照からも、「こんせつ」と「あいれん」との場合と同様で、⑩においては、*へ好意的* と *へ慈悲的*、⑫においては、*へ親切* な *へ慈悲的* な *へ好意的* に対応する意義を異義として対立的に取り出すことができる。ラテン語見出しとの関係においても、前述したように、⑩の見出しの

Propitio.as.sive, Propitiolaris. の措定された語義の中には、 \wedge 憐み \wedge や \wedge 同情 \wedge の意と直接的に関わる意義を指定することは難しいが、Propitio.as.sive. が、 \wedge 慈悲深 \wedge の意義を有するとされると「 \wedge 」の \wedge の見出しの Propitius.a.um. を語源としているからには、⑪の Propitio.as.sive, Propitiolaris. の語義にも、 \wedge 憐み \wedge や \wedge 同情 \wedge に関わる意義の存在を推認できるわけである。⑪、⑫のラテン語見出しの多義性の反映として、日本語訳文の段階において、類義性、異義性の同格的併記が併存しているのである。

「 \wedge んせつ」と「ねんごろ」とが、日本語訳文中において、同格的に併記されているのは、⑫の Conxenio cotobauo caquru, Ienngoroni atquod……、⑦の Conxeni, ……nengoroni. の二例であるが、正確には、⑫では、Conxenio cotobauo caquru と nengoroni atquod、⑦では、Conxeni と nengoroni とが同格的である。『日葡辞書』には、「ねんごろ」「ねんごろに」が、それぞれ、

Nengoro. Agasalhadu. curcias. &c. (訳：懇^{本語} 厚遇^{本語}、かわいがり、など)

Nengoroni. Adu. Amorosamente. & com. agasalhadu. ¶ It-
em. Mtdamente. ou exactamete. (訳：懇^{本語}。副詞。愛情をもち
て、および、もてなす際に) 心を込めて。『また、注意
周到に、あるいは、正確に。』

とあり、「 \wedge んせつ」と「ねんごろ」とは、 \wedge 厚遇 \wedge の意において類義性が存するし、「 \wedge んせつ」が形容動詞の連用形「 \wedge んせ

つに」として働く \wedge (もてなす際に) 心を込めて \wedge の意と「ねんごろに」の語義も、 \wedge (もてなす際に) 心を込めて \wedge という意において類義性があると解される。「 \wedge んせつ」と「ねんごろ」との同格的な併記は、 \wedge 厚遇 \wedge あるいは \wedge (もてなす際に) 心を込めて \wedge という意の類義性に基^づいて行われているわけである。⑦の場合、日本語訳文は、Conxeni, cocoro yogu, nengoroni. であるから、この三語は、 \wedge (もてなす際に) 心を込めて \wedge という意の類義性により、同格的に併記されていることになる。当該項目のポルトガル語訳文と対照すると、②では、 \wedge 善き言 \wedge という意の表現が Conxenio cotoba. に対応し、 \wedge 善き事 (を) \wedge という意の表現が nengoroni に対応しており、対象に対してなされる言動が当人にとつて \wedge 善き言・事 \wedge としてであれば、 \wedge 心を込めて \wedge と近接していると見做される。⑦の場合は、 \wedge 親切に \wedge と \wedge 気前よく \wedge の意の表現が対応しており、「 \wedge んせつに」と「ねんごろに」の、 \wedge (もてなす際に) 心を込めて \wedge の意にも対応している。ラテン語見出しとの関係では、Eulogiae. は、 \wedge 祝福 \wedge を意味する、ギリシア語を出自とする語である。 \wedge 祝福 \wedge が、祝意を含む表現や振る舞いをするところとであれば、 \wedge 厚遇 \wedge や \wedge (もてなす際に) 心を込めて \wedge という意とも不整合は生じない。

「 \wedge んせつ」と「たいせつ」とが、日本語訳文中で、同格的に併記されているのは、①の Taixeu, conxet.、⑫の Taixeni vomô, ……conxeni suru. の二例であるが、⑫については、

Taixehni vomô へ conxehni suru とが同格的であるというのがより正確である。「たいせつ」は、『日葡辞書』には、

Taixet. Amor. 『Taixehni moyuru. Ader em amor.』 Taixetuo

tecusu. Amar simamente ou mostrar grande amor. ④

agashado. 『Taixehni zonzuru, vomô, Amar. (訳：大切。愛。^{タイセツ})

『大切ニ燃ユル。愛に燃える。』大切ヲ尽ス。非常に愛する、

また大きな愛と厚遇を示す。『大切ニ存スル、または思フ。^{オモ}

愛する。)

とあり、へ愛く、あるいは、へ愛くへとへ厚遇くの意と捉えられていると思われる。したがって、「こんせつ」と「たいせつ」とは、へ愛くへとへ厚遇くの意において、類義性が存するということになるが、①の場合とはともかく、④の場合は、同格的な表現の Taixehni vomô と同文が『日葡辞書』の「たいせつ」の項目の例文にあつて、ここではへ愛するくの意としているから、こちらは、へ愛くの意における類義性を認めるべきであろう。当該項目のポルトガル語訳文と対照すると、①については、へ愛徳くの意の語か、へ愛くの意の語の少なくとも一方と対応していることが期待されるが、「たいせつ」「こんせつ」とも amor とへ愛くの意において類義関係にあると考えられる。「たいせつ」と amor との強い類義関係は『日葡辞書』の「たいせつ」の項目の記載内容からも明らかであるけれども、「こんせつ」も amor と強い類義関係にあることは、『サントスの御作業の内抜書』(1591年刊)や『コ

ンテムツス・ムンヂ』(1595年刊)の「ことばの和らげ」に、それぞれ、

hangon qun
Con-xet. Grande amor.

Conxet. Nengroni xet nari. Grande amor.

とあり、ともに「こんせつ」を「Grande amor」(大きな愛)とのみポルトガル語訳していることで確認できる。④については、Taixehni vomô がへ愛するくの意の amar と対応しているのは間違いないが、conxehni suru は amar ともへ好意を示すくの意の fauorecer とも対応し得る。ラテン語見出しとの関係では、①の見出しの Caritas, J, Caritas, atis. は、多義語ではあるが、別稿^{注6}で述べたように、ここでは、神学用語のへ愛徳くの意義として取り立てていると考えられるし、そのポルトガル語訳の Charidade も同様であり、amor や日本語訳語の「たいせつ」「こんせつ」は、キリスト教用語としての Caritas の語義を包摂する上位概念の語として引き当てられていると判断される。④の見出しの Studeo, es, diu, iu. の措定された語義の中には、へ好意を持つくの意があるのに、へ愛するくの意は措定されていない。④の日本語訳文では、Taixehni vomô, chisô suru, conxehni suru. とあるので、「ちそう」と同様に、「たいせつ」「こんせつ」もへ厚遇くの意において、ラテン語見出しの Studeo, es, diu, iu. に対応しているという解釈も一応可能であるけれども、Studeo, es, diu, iu. の対訳ポルトガル語として、へ愛するくの意の amar も採られている以上、

Studeo, es, dui, iū. の指定された語義には存しないものの、へ愛するの意を有していると想定し、へ愛の意において、「たいせつ」、「こんせつ」が対応している可能性もある。とすれば、「こんせつ」は、ここでは、へ厚遇の意において、「ちそう」と、へ愛の意において、「たいせつ」と、それぞれ、類義関係にあるのかもしれない。少なくとも、「たいせつ」に関しては、そのように捉える方が自然であろう。

「こんせつ」との同格的な併記が一例のみ見られるのは、「おんをきする（恩着）」、「くらゐにあぐる（位上）」、「そうきやうする（崇敬）」、「きげんをとる（機嫌取）」、「なさけをかくる（情掛）」、「にゆうわに（柔和）」、「めをかくる（目掛）」である。

まず、「こんせつ」と「おんをきする」とが同格的に併記されているのは、⑨の *Vonno vgetaru fioni conxet*……*uo ũcucusu mono*……*tanini vonno qisurumono* の一例であるが、正しくは *conxet*……*uo ũcucusu* と *vonno qisuru* とが同格的に置かれているわけである。『日葡辞書』の「おん（恩）」の項目には、例文に、「おんをきする」が挙がっている。

Von. Megumi. Beneficio……『*Von. J. Vonxōuo atayuru. J. fōdocosu. ũqisuru. Fazer merex*……（訳：恩^{オン}・恵^{メグ}。恩恵^{オンケイグ}。中略）』恩^{オン} あるいは、恩賞^{オンキョウ}ヲ与^ユユル、あるいは、施^{ホト}ス、あるいは、着^キスル。恩恵^{オンケイグ}を与^ユえる。（以下略）

この記述によれば、「おんをきする」は、へ恩恵を与えるのとい

う意と判断されるが、同格的にある「こんせつをつくす」が、へ大きな愛と厚遇を示すという意であるから、上位者からのへ厚遇を示すことが、へ恩恵を与えるのということともなるので、両者にはへ厚遇の意に関して類義性を一応認めることもできよう。当該項目の対訳ポルトガル語文と対照すると、へ他人に善くするの意の表現と対応していると取れなくはない。ラテン語見出しとの関係からは、前述したように、⑩の *Officiosus. a. um.* の指定された語義の中には、へ親切な^クが存している。

「こんせつ」と「きげんをとる」とが同格的に併記されているのは、⑩の……*conxet*……*sasuru. fiono qiguenu toru.* の一例であり、正確には、*conxet*……*sasuru* と *(fiono)qiguenu toru* とが同格的である。『日葡辞書』の「きげん（機嫌）」の項目に、例文として、「ひとのきげんをとる」が掲げられている。

Qiguen. Sembrante『*Fiono qiguenu toru. Contentou fazer por comperzer a alguem*……（訳：機嫌^{キゲン}・様子^{キョウジ}。人^{ヒト}ノ機嫌^{キゲン}ヲ取^{トル}ル。人^{ヒト}を満足^{マンジツ}させる。あるいは、人に気^キに入^{イル}られようとする。）

この記述によれば、「ひとのきげんをとる」は、へ人を満足させる、へ人に気に入られようとするの意であるから、へ厚遇させる、へ愛させるの意の「こんせつ」（に）させる」との間に類義性は認めがたい。ゆえに、対等な異義関係に基づく同格的な併記と考えられる。「ひとのきげんをとる」は、当該項目の対訳ポルトガル語文と対照すると、へ慰めるの意の表現との対応が見られる。

ラテン語見出しとの関係からは、⑩の Proprietor, assine, Proprietor, aris. の指定された語義の中には、へ好意を得るゝの意があり、この意と対応していると解される。

「こんせつ」と「くらゐにあぐる」とが同格的に併記されているのは、④の……conxeni suru, curaini aguru. の一例であるが、正しくは、conxeni suru と curaini aguru とが同格的なのである。『日葡辞書』の「くらゐ(位)」の項目には、「くらゐにあぐる」自体に関する記述はないものの、例文として、「くらゐにあがる」「くらゐにめしあぐる」が引かれている。

Curai Dignidade. 『Curaini aguru. Subir em dignidade.……』Curai

ni mexiaguru. Alcançar a alguém em dignidade.…… (訳・

位シキ。高位クニシキ。『位ニ上ガル。高位に昇進する。(中略)』位シキ

ニ召シ上グル。人を高位につける。(以下略)

この項目の記載内容からすれば、「くらゐにあぐる」は、へ(人)を(高位につける)の意と思われるが、へ厚遇するゝ、へ愛するゝの意の「こんせつにする」とは、類義性が考えにくい。両者は、対等な異義関係による同格的な併記と判断される。当該項目の対訳ポルトガル語文と対照すると、「こんせつにする」は、Honrar のへ大切にするゝの意と対応し、「くらゐにあぐる」の方は、同じく Honrar のへ名誉を与えるゝの意と対応していると解される。ラテン語見出しとの関係からは、④の Honesto, as. の指定された語義の中にあるへ榮譽を与えるゝという意義が、「くらゐにあぐる」

に対応していると言える。「こんせつにする」に関しては、指定された語義の中には、対応が想定できるものは見出しがたいが、Honesto, as. の対訳ポルトガル語の Honrar には、へたいせつにするゝの語義があつて、「こんせつする」がそれに対応していることからすれば、Honesto, as. にも、へたいせつにするゝの意義が存すると想定する方が自然であろう。

「こんせつ」と「そうきやうする」とが同格的に併記されているのは、④の Sôqio suru, conxeni suru……であり、厳密には、Sôqio suru と conxeni suru とが同格的である。「そうきやう」は、『日葡辞書』には、

Sôqio i Tatomí y Yamô. Veneração ou reverencia. Vt. Fitou sôqio

suru. Honrar. ⇨ venerar a alguém. (訳・: 崇敬ソウキヤウ すなわち、尊

敬ウヤフ。崇拜、あるいは、尊敬。例、人ヲ崇敬スル。人を

尊敬し崇拜する。)

とあり、「そうきやうする」は、へ尊敬するゝ、へ崇拜するゝの意と解される。したがつて、「こんせつにする」と「そうきやうする」とは、対等な異義関係における同格的な併記と言つてよい。当該項目の対訳ポルトガル語文と対照すると、「そうきやうする」は、Honrar のへ尊敬するゝの意と対応していることになる。ラテン語見出しとの関係からは、④の Honesto, as. の指定された語義の中には対応する意義は見出しにくいが、前述の「こんせつにする」と同様に、対訳ポルトガル語の Honrar には、へ尊敬するゝ

の語義があり、それに「そうきやうする」が対応しているからには、Honesto, as にも、へ尊敬するの意義が存すると想定できよう。

「こんせつ」と「なさけをかくる」とが同格的に併記されているのは、⑫の……, *conxetni*……*suru mono*……*nasagequ caquru mono* の一例であるが、正しくは、*conxetni*……*suru* と *nasagequ caquru* とが同格的なのである。『日葡辞書』の「なさけ(情)」の項目に、例文として、「ひとになさけをかくる」が挙がっている。

Nasage. Piedade, ou amor. 『Fioni nasagequ caquru. Fazer bem a

diguem, ou mostrar-lhe amor. (訳：情・同情・あるいは、愛。

人二情ヲ掛クル。人に善くする、あるいは(人に)愛を示す。)

『日葡辞書』の解釈に従えば、「なさけをかくる」は、へ(人に)善くする、へ(人に)愛を示すの意ということになるから、へ厚遇する、へ愛するの意の「こんせつにする」との間に類義関係が存することになる。よって、「こんせつにする」と「なさけをかくる」とは、類義性に基づいて同格的に併記されていると解される。当該項目の対訳ポルトガル語文と対照すると、「こんせつ」は、へ親切なへの意の *favoravel* と、「なさけをかくる」は、へ(人に)善くするへの意において同様に対応していると見做される。ラテン語見出しとの関係からは、⑫の *Propitius, a, um* の指定された語義の中では、へ親切なへの好意的なへの意が、「なさけをかくる」のへ(人に)善くするへの意に対応していると判断さ

れる。

「こんせつ」と「にうわに」とが同格的に併記されているのは、⑧の *Nhũani*……, *conxetni* であり、厳密には、*Nhũani* と *conxetni* とが同格的に併記されているわけである。『日葡辞書』の「にうわ」の項目には、

Nhũua. Yauaraca yauaraca. Mansidzo. 『*Nhũua ninicuno fio.*

Homem m̃aso. Paciencia. (訳：柔和。柔力。温和。柔和忍辱ノ人。穏やかで忍耐の人。)

とあり、「にうわに」はへ温和への意と見られるから、「こんせつに」との間に類義性は認めにくい。したがって、両者は、対等な異義関係に基づく同格的な併記と言える。当該項目の対訳ポルトガル語文と対照すると、*benignante* の語義のへ温和への「にうわに」は対応し、*benignante* の語義のへ親切への「こんせつに」が対応していると考えられる。ラテン語見出しとの関係からは、⑧の見出しの *Humane, adu.* の指定された語義の中では、へ慎みをもってへの意が「にうわに」、へ親切への意が「こんせつに」に対応していると見做される。

「こんせつ」と「めをかくる」とが同格的に併記されているのは、⑫の……*cõxetni*……*suru mono, meuo caquru fio*……であり、より厳密には *cõxetni*……*suru* と *meuo caquru* とが同格的である。『日葡辞書』の「かけ、くる(掛)」の項目の例文として「ひとにめをかくる」が掲げられている。

Cage:uru.Por……『Fironi meuo caquru.Faoreer a alquem.
 (訳：掛ケ、クル。置ク。(中略)』人ニ目ヲ掛クル。人に
 好意を示す。)

この解釈によれば、「めをかくる」は、へ(人に)好意を示すの意と解され、「こんせつする」のへ厚遇するの意とは類義性が存すると見做すことができるから、「こんせつにする」と「めをかくる」とは、類義性に基づいて同格的に併記されていると判断される。当該項目の対訳ポルトガル語文と対照すると、faonraeiのへ親切な、へ好意的な〜に対応していると言える。ラテン語見出しとの関係からは、⑫の Propius,a.um.の措定された語義の中では、へ親切な、へ好意的な〜との対応が認められる。

六 おわりに

以上、『羅葡日対訳辞書』における「こんせつ(懇切)」の現れ方をめぐって、検討してきた。

『羅葡日対訳辞書』における「こんせつ」全十四例は、ラテン語見出しに対する日本語訳文中に存するが、その際、「こんせつ」が同格的な表現と併記されている場合——「こんせつに(……)」の形等と併記されていることもある——と、併記されていない場合があり、前者は十二例、後者は二例で、殆どが併記されている場合である。

「こんせつ」が、同格的な表現と併記されていない場合は、へ厚遇の意で使われており、少なくとも、「こんせつ」がへ厚遇の意の代表的な語の一つと捉えられていたと考えられる。

「こんせつ」が、同格的な表現と併記されている場合には、類義関係に基づく同格的な併記と、対等な異義関係に基づく同格的な併記とがあり、三つ以上の同格的な併記がある場合には、両方の同格的な併記が併存している例もある。

類義関係に基づく同格的な併記の場合、「こんせつ」のへ厚遇の意においての例が多いが、へ愛の意においてや、へ愛及びへ厚遇の意において同格的に併記されていると解される例もある。しかも、三つ以上の同格的な併記がある場合には、これらが併存している例も存する。

対等な異義関係に基づく同格的な併記の場合、「こんせつ」は、当該項目の対訳ポルトガル語文や見出しのラテン語との対照によると、へ厚遇の意の語として採用されていると推測される。「こんせつ」と異義関係にある表現の方は、見出しのラテン語自体や対訳ポルトガル語の多義性から生じていると判断される。

このように『羅葡日対訳辞書』における「こんせつ」の現れ方は複雑であり、日本語訳文における同格的な併記を抛り所として、同格的な表現同士の意義を特定するのは、『羅葡日対訳辞書』において、極めて困難であると言わざるを得ない。

なお、『羅葡日対訳辞書』においては少数ながら、「こんせつ」

という語にキリスト教的愛との関係性が生じるのは、へ愛への意のみが取り立てられる場合に限られるということになる。

注1 拙稿『羅葡日対訳辞書』における Caritas の項目をめぐる

て—charidade, amor, 「たいせつ」「らんせつ」のありよう—(『藤

女子大学国文学雑誌』第86号・二〇一二年三月)

注2 『羅葡日対訳辞書』の見出しのラテン語の和訳語義は、『羅和辞典(改訂版)』(研究社・二〇〇九年)による。

注3 この見出しは、『羅和辞典(改訂版)』には未掲載。『岩波きりすと教辞典』(二〇〇二年・岩波書店)による。

注4 本稿における「ラテン語自体に措定されている語義」とは、注2の『羅和辞典(改訂版)』に示されている語義のことをいうこととする。

注5 注1の拙稿で述べたように、charidade は『日葡辞書』において「たいせつ」に対してを含め、訳語としては全く用いられていない。

注6 注1の拙稿。

〈うるしぎき まさと・本学教授〉

第八十六号 目次 二〇一二年 三月

落窪の君と阿槽の成長・出世譚としての『落窪物語』

井上 真梨子

『羅葡日対訳辞書』における Caritas の項目をめぐる

—charidade, amor, 「たいせつ」「らんせつ」のありよう—

漆崎 正人

水哉子卷之上譚注(その二)……………名畑 嘉則

二〇一一年度日本語・日本文学科卒業研究(論文) 題目